

## カンボジア

首都：プノンペン  
 面積：18.1万km<sup>2</sup> (日本の約2分の1弱)  
 人口：1,340万人  
 公用語：カンボジア語  
 宗教：仏教  
 主要産業：観光・サービス、農業、鉱工業  
 通貨：リエル  
 経済成長率：10.2% (2007年)  
 主要貿易品目：(1) 輸出 縫製品、生地、天然ゴム・ゴム製品  
 (2) 輸入 生地類、石油製品、家電製品、  
 車輻部品

## タイ

首都：バンコク  
 面積：51.4万km<sup>2</sup> (日本の約1.4倍)  
 人口：6,304万人  
 公用語：タイ語  
 宗教：仏教  
 主要産業：農業、製造業  
 通貨：バーツ  
 経済成長率：4.8% (2007年)  
 主要貿易品目：(1) 輸出 コンピューター、自動車・部品、  
 集積回路、天然ゴム  
 (2) 輸入 原油、機械・部品、  
 電気機械・部品、化学製品

## ベトナム

首都：ハノイ  
 面積：33万km<sup>2</sup> (日本の約0.9倍)  
 人口：8,616万人  
 公用語：ベトナム語  
 宗教：仏教  
 主要産業：農林水産業、鉱業、軽工業  
 通貨：ドン  
 経済成長率：8.5% (2007年)  
 主要貿易品目：(1) 輸出 原油、縫製品、履物、水産物など  
 (2) 輸入 機械機器 (同部品)、石油製品、  
 鉄鋼、布など

## ミャンマー

首都：ネーピードー  
 面積：68万km<sup>2</sup> (日本の約1.8倍)  
 人口：5,322万人  
 公用語：ミャンマー語  
 宗教：仏教  
 主要産業：農業  
 通貨：チャット  
 経済成長率：12.7% (2006年)  
 主要貿易品目：(1) 輸出 天然ガス、チーク、豆類、米、エビ  
 (2) 輸入 機械類、金属・工業製品、原油、  
 電気機械、紙類

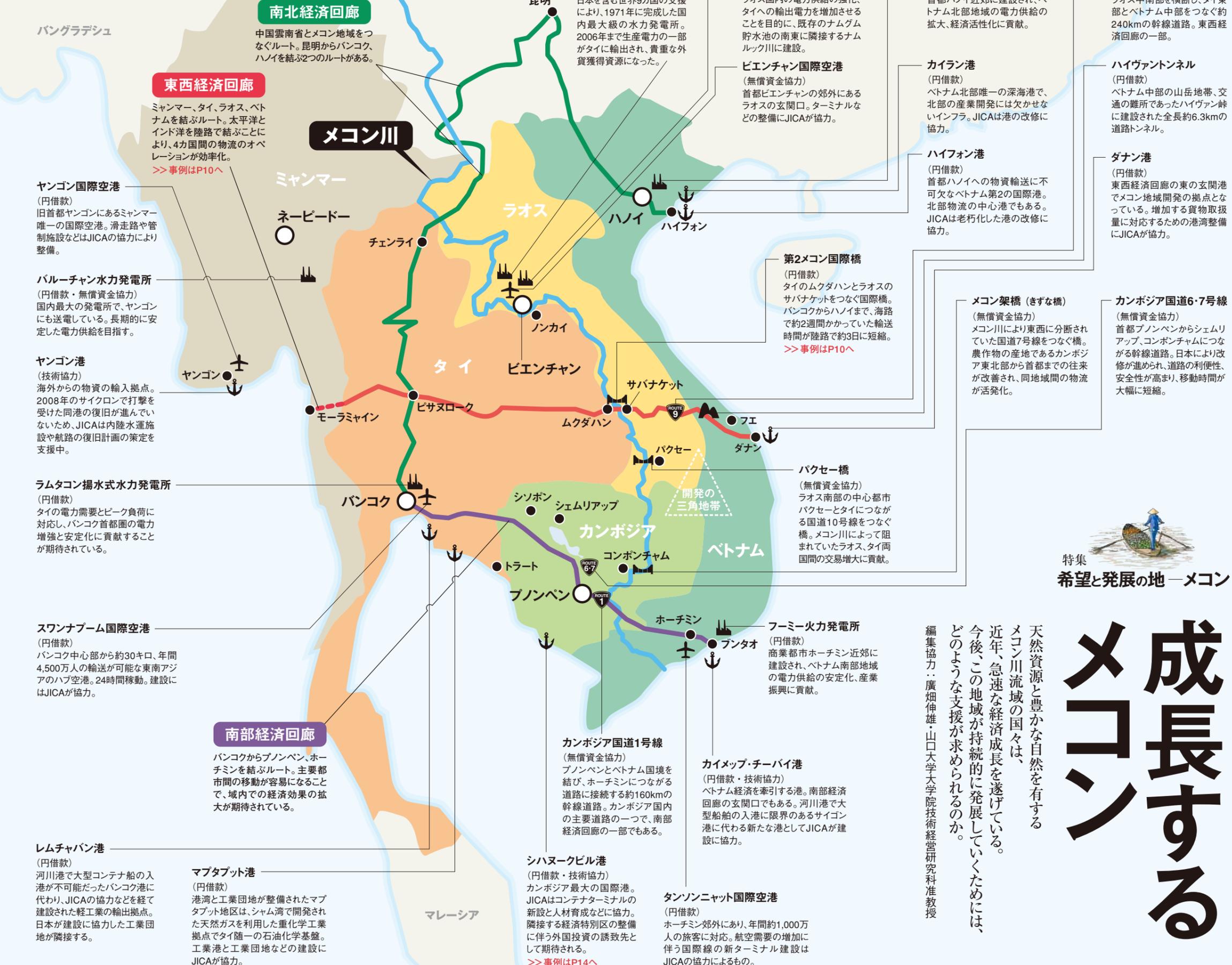
## ラオス

首都：ビエンチャン  
 面積：24万km<sup>2</sup> (日本の約0.6倍)  
 人口：580万人  
 公用語：ラオス語  
 宗教：仏教  
 主要産業：農業、工業、林業、鉱業、水力発電  
 通貨：キープ  
 経済成長率：7.5% (2007年)  
 主要貿易品目：(1) 輸出 衣料品、金・鉱物、電力、木材製品  
 (2) 輸入 燃料、工業製品、衣料用原料

(参考) 外務省ホームページ、JICAホームページなど

## [メコン地域の経済成長を支える主要なインフラとJICAの支援]

※インフラの整備・建設に関する開発調査は除く。



### 南北経済回廊

中国雲南省とメコン地域をつなぐルート。昆明からバンコク、ハノイを結ぶ2つのルートがある。

### 東西経済回廊

ミャンマー、タイ、ラオス、ベトナムを結ぶルート。太平洋とインド洋を陸路で結ぶことにより、4カ国間の物流のオペレーションが効率化。  
 >>> 事例はP10へ

### 南部経済回廊

バンコクからプノンペン、ホーチミンを結ぶルート。主要都市間の移動が容易になることで、域内での経済効果の拡大が期待されている。



特集 希望と発展の地—メコン

# 成長するメコン

天然資源と豊かな自然を有するメコン川流域の国々は、近年、急速な経済成長を遂げている。今後、この地域が持続的に発展していくためには、どのような支援が求められるのか。

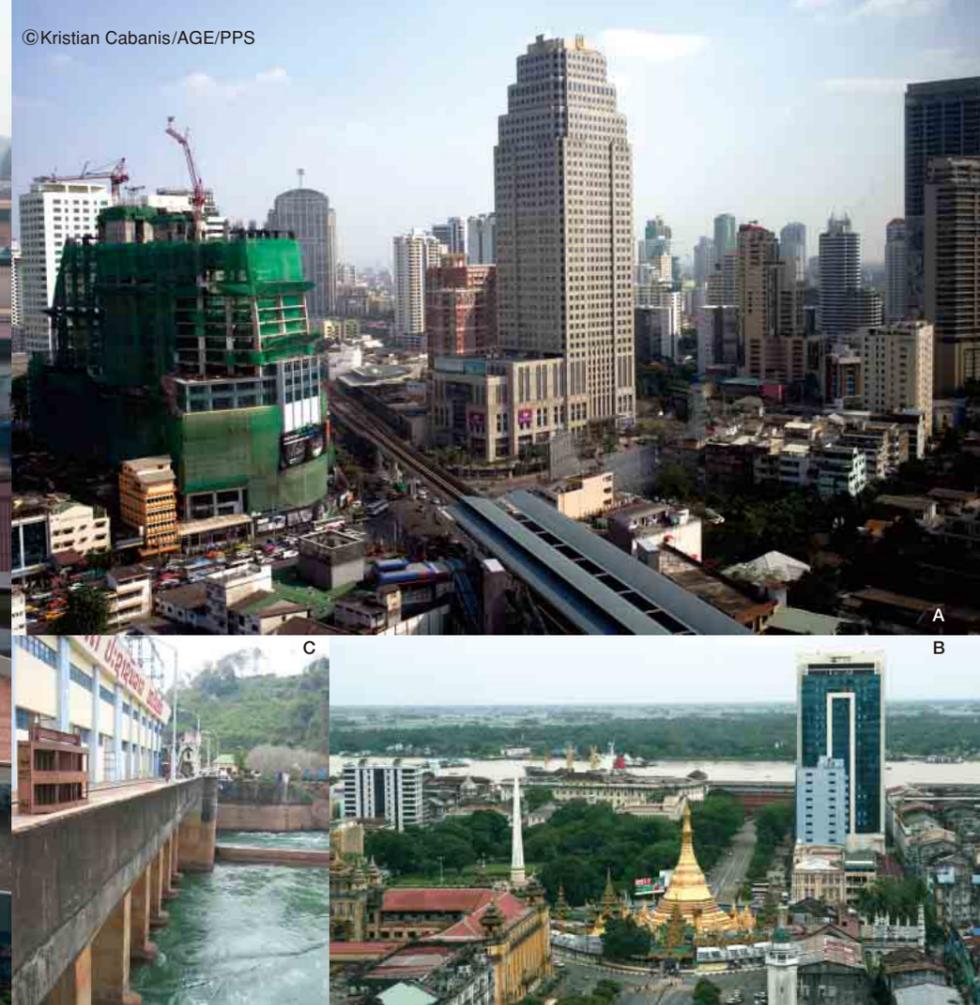
編集協力：廣畑伸雄・山口大学大学院技術経営研究科准教授

一人当たりのGDP (国内総生産)

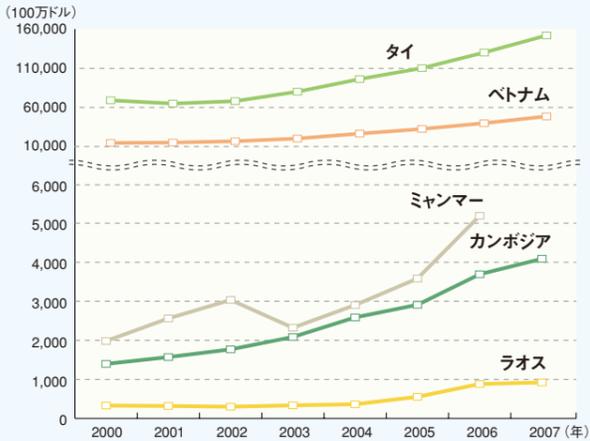
	2000年	2007年
タイ	2,023	3,841
カンボジア	287	598
ラオス	332	711
ミャンマー	159	379
ベトナム	394	815

(単位:ドル)

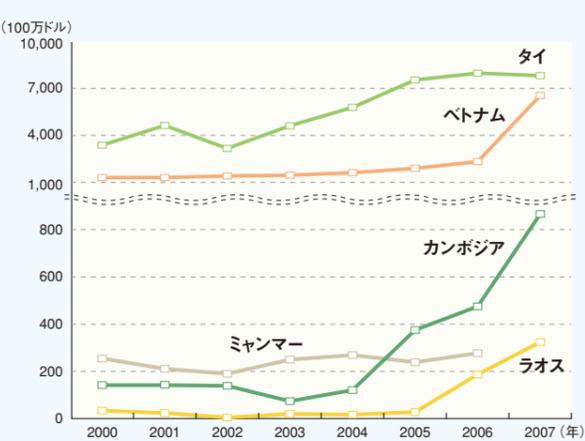
- A. 高層ビルが立ち並ぶタイの首都バンコク
- B. 都市化が進むミャンマーの旧首都ヤンゴン
- C. 国内および輸出用電力の生産増を目的に建設されたラオスのナムルック水力発電所
- D. 経済発展とともに車の数が増加し、渋滞も多いカンボジアの首都プノンペン



メコン地域の貿易輸出額の推移



メコン地域への直接投資額の推移



(参考) Key Indicators for Asia and the Pacific 2008 (2008), Asian Development Bank/UN data (<http://data.un.org/>)

可欠な存在となつているといえる。その意味でも、「日本がメコン地域を支援することの重要性は高い」と廣畑さんは言う。

日本は07年1月、日・メコン外相会議で「日本・メコン地域パートナーシップ・プログラム」を発表。①地域経済の統合と連携の促進、②日本とメコン地域との貿易・投資の拡大、③価値観の共有と地域共通の課題への取り組みを三本柱とし、メコン地域のさらなる発展に向けた支援を強化する方針を打ち出した。

中でも力を入れているのが、カンボジア、ラオス、ベトナムの国境の山岳地帯にある「開発の三角地帯」への支援だ。この一帯は、貧困度が高い少数民族が多く居住し、東南アジアの中でも最も開発が遅れている地域の一つ。日本は、投資の誘致や観光開発の推進を視野に入れつつも、まずはメコン地域共通の課題である域内格差の是正を目指し、ベシック・ヒューマン・ニーズを中心とした支援を行っている。

またメコン地域は、ヒト・モノ・カネが国境を越えてスムーズに移動できるよう、国際社会の支援を受けながら、国をまたいだ「経済回廊」構想の実現に向けて動き出した。一つは、東西経済回廊。ベトナムのダナンからラオス、タイを経てミャンマーのモーラミヤインに続く約1450キロの道路で、第2メコン国際橋の建設(円借款)

## メコン地域のさらなる発展のために

カンボジア、タイ、ベトナム、ミャンマー、ラオスから成るメコン地域は、貿易や投資など、活発な民間の経済活動に後押しされ、近年の経済成長率(2007年)は4.8%(タイ)〜10.2%(カンボジア)と、軒並み高い数値を記録している。

これらの中には、内戦などが原因で政情不安が続いていた国もあったが、90年代初頭になるとそれが終息に向かい、経済発展への道が開かれた。これに伴い、国際社会による支援も活発化し、92年には、メコンを一つの地域としてとらえ、域内の資源を開発・共有し、ヒトとモノの自由な流れを推進する「大メコン圏地域経済協力プログラム」がアジア開発銀行により提唱され、域内経済の発展の重要性が注目されるようになった。

そうした中、日本も「メコン地域」の成長に貢献すべく、政府開発援助(ODA)やNGOとの連携を通じ、幅広い支援を続けてきた。協力分野は、運輸・交通、市場経済化、法整備、教育・人材育成、保健・医療、防災・災害対策、水・衛生などさまざま。とりわけ、道路や橋、港、空港、発電所といった、成長を牽引する経済インフラの整備には力を入れてきた。

## 日本とのパートナーシップを強化

日本はこれまで、メコン地域5カ国を含む東南アジア諸国連合(ASEAN)と、貿易などの面で密接にかかわり合いながら、相互に政治的・経済的発展を遂げてきた。さらに近年、タイやベトナムを中心にメコン地域へ進出する日系企業が増えるとともに、経済取引の円滑化を図るための経済連携協定や投資協定が次々に結ばれている。つまり、これまで以上にメコンとの経済関係が密接になり、日本にとって不

一方で、域内格差の是正という課題がまだ横たわる。07年の一人当たりGDP(国内総生産)を比較すると、中進国に仲間入りしたタイ(3841ドル)に対して、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムはいずれも1000ドル以下。その差は、年々縮まってはいるものの、まだまだ大きく開いている。また、一国内で見ても、着実に発展する都市部に対して、農村部では多くの貧困層が存在するのが現状だ。

廣畑伸雄・山口大学大学院技術経営研究科准教授は、「メコン地域には、未開発の天然資源や自然など、持続的な成長を促すポテンシャルが十分にあり、それをいかに効果的に開発し、経済成長につなげていくかが今後の課題です」と話す。

「今後は、インフラなどのハードはもちろん、産業人材の育成などソフトの支援との相乗効果がより重要になります。さらに、これまでは独立した経営を考えていたタイとベトナムの工場間の垂直分業、企業間の連携などによるトータルコスト削減が実現できる可能性もあり、新たな国際経営戦略の創出による回廊の一層の活用が期待されます」と廣畑さんは展望を述べる。

成長するメコン地域のさらなる発展を支えるため、JICAはソフトとハードの両面から多角的な支援に取り組んでいく。

※衣食住、初等教育、医療衛生など、人間が生きていくために必要とされる基本的な生活基盤。